

センター建設にあたっての記録  
沖縄小児保健センター落成式典・  
創立35周年記念式典



すべての子どもに  
活きる力と夢みる心を



## 沖縄小児保健センター建設事業

沖縄県小児保健協会は、1973年7月28日に任意団体として発足し1981年3月からは社団法人として今日まで社員一同が沖縄の小児保健向上を目指して地道に活動を続けてきました。

当協会の活動の中で、小児保健関係者の資質向上を図る諸研修事業は、沖縄の小児保健向上を図るための必須事業として最も力を注いだ事業で、小児保健学会の開催、特別講演会の開催、保健セミナー等の各種研修会を開催してきました。

これらの事業実施に際して研修会場の確保等の調整に多くの課題があったことと、活動拠点が借り事務所であった為に理事会等の諸会議を開催するスペースが確保できず、ホテルの会議室を使用していたため、当協会の活動拠点としての会館建設についても理事会の中で話し合いが行われてきました。その間、会館建設に向けて資金の積み立てをコツコツと行いながら、1999年12月2日には、念願の会館建設に向けたマスタープラン小委員会を立ち上げ、会館建設の必要性、会館建設の基本理念、タイムスケジュール等の検討を開始いたしました。

マスタープラン小委員会では、急ピッチで作業を進め、2000年3月には報告書案を策定し、同月に理事会の承認を得て報告書を完成させております。

この様な経過を経て会館建設に向けた具体的な取り組みが行われて参りましたが、2001年11月8日の理事会において会館建設用地として南風原町新川272-3の土地を購入することを決定し、翌2002年7月18日に2,422.98㎡の土地を購入しております。

また、2003年10月29日には第1回設計担当委員会を開催し、週1回のペースで委員会を開催し、その間経営コンサルタントや銀行調査部門の責任者等を招いての勉強会を行いながら、会館建設規模や建設費用の問題等を検討しております。ちょうどその時、沖縄県からファミリーハウスの建設についての打診があり、県が会館とファミリーハウス建設用地を無償で提供出来るのであれば、小児保健協会としても同事業が子どもたちの健全育成につながる事や、県立南部医療センター・こども医療センターとの連携を図る意味からも検討する価値があると言う事で、県外のファミリーハウスの運営実態調査を行うと共に、沖縄県におけるファミリーハウス建設の必要性の有無についての調査を実施することになりました。

その事により2004年4月1日から14日までの期間を対象に、小児入院施設のある県内15医療機関を対象に離島等からの入院患者の受け入れ状況をはじめとしたファミリーハウスに関するアンケート調査を実施いたしました。

その調査結果を取りまとめ、理事会の承認を得た上で報告書を作成し11月29日には県の福祉保健部長に対して11室程度のファミリーハウスを整備する必要がある旨の調査結果を報告しております。

当協会の理事会においてもファミリーハウスの必要性は認めながらも、当協会の財務状況では責任を持って永続的な管理運営まで担う事は不可能であるとの結論に達しました。それで県が会館とファミリーハウスの建設用地を提供する事と、ファミリーハウスの管理運営を第三者が担うとい

う2つの条件を満たせば、会館建設時にファミリーハウスを併設する事を決定しました。県とは県有地の無償貸与の問題とファミリーハウスの運営をどこが担うのかといった問題点を調整することになり、当時県に対してファミリーハウスの建設要請を行っていた「こども病院設立推進協議会」も一緒になって協議してきました。

ところが県からの土地の無償貸与については、県の所管部局間の調整がうまく行かず困難であるとの見通しに達し、「こども病院設立推進協議会」からはファミリーハウスの建設については、百添会の記念事業として建設できそうだとの情報が寄せられました。

当協会ではファミリーハウスについて1年余の期間をかけて諸調査と様々な調整を行って参りましたが、以上の経過を踏まえ会館単独での建設に向けて本格的に取り組むことになり、2005年9月14日の理事会において、会館の建設規模を延べ床面積500坪程度、建設資金は約3億円で、すでに購入済みの用地に建設する事を決定し、設計事務所を選ぶ方法としてのプロポーザルコンペ募集要綱案の審議を行っております。

2005年11月6日には第1回目のプロポーザルコンペ審査委員会を開催し、優秀な作品を提案してもらおう為にも全国公募とすることを決め、公募に向けた提案書の様式等募集要項の詳細な検討を行っております。

2006年3月4日には第2回目のプロポーザルコンペ審査委員会が開催され、全国から提案書を提出した16社に対しての一次審査を実施しております。

審査に際しては提出企業名を完全に伏せる為に各社の資格審査資料には五十音での符号を付し、提案書にはA～Pまでの記号を無作為に付して資格審査資料と提案書が類推出来ない方法で審査を進めました。

審査に際しては各審査委員が5件以内の提案書を推薦する方法で投票を行い、その結果1件も投票されなかった10件を除いた6件の提案書が第1段階で絞り込み、さらに提案内容を審議して4件を二次審査に回すことを決定しております。

また3月12日には一次審査を通過した4社に対しての二次審査を実施し、ヒアリングにおいては各提案社から提案書の説明を受けた後にそれぞれに対し質疑を行い、各案の課題についての提案者の説明をとおして評価を行っております。ヒアリング終了後に各社の提案書についての意見交換を行い本計画に対する適性など十分な検討を行った後、審査委員が投票を行い、第1位に「フナキサチコケンチクセッケイジムシヨ・細矢仁建築設計事務所設計共同体」が選ばれました。その結果はその日の内に笈淳夫委員長から玉那覇会長に対して答申書を手交しております。

2006年3月24日には理事会を開催し、プロポーザルコンペ審査委員会からの答申についての審議を行い、答申に基づいて「フナキサチコケンチクセッケイジムシヨ・細矢仁建築設計事務所設計共同体」を設計監理の第1候補として事務調整を行うことを決定しております。

この理事会決定を受けて4月7日には第1回目の設計事務所との事務調整を行い、予てから県より購入打診が有った県有地（沖縄小児保健セン

ター建設地)に案内し、コンペでの建設予定地とは異なる新しい敷地での建設の可能性を打診したところ、コンペ敷地よりも格段と環境が良いので、設計のやり直しにはなるけれどもこの場所でぜひ良い作品を創ってみたいとの強い意欲を示し、懐の深い心強い回答をいただきました。

この時点でこの人達とは良い仕事が出来そうだと実感したことを覚えております。

設計事務所との調整結果を踏まえ、4月27日の理事会において、新たに会館建設用地として県から2億円程度の敷地を購入することを決定し、早速県と用地の購入についての調整に取りかかると共に設計事務所とも設計監理料の詳細な調整を進め6月1日には設計監理委託契約の締結を行い、その日に第7回目の設計担当委員会を開催しております。設計事務所からA案とB案の基本設計図案が提示され検討しております。

一方県との用地交渉においては、県の部局間の考え方の違いなども有ってなかなか進捗しない状況の中で、県の財産管理を所管する総務部長、福祉保健部長を交えての話し合いを行い、県としての結論を急いでくれる様に強く申し入れを行うなどして、2007年1月16日には県側の不動産鑑定額が示され、当方で実施した不動産鑑定額との中間を取って土地の単価とする事が県の方針として示されました。その後県では売却予定地の農地から宅地への地目変更手続きを行い、その手続き完了を待ちました。

手続き完了後の2007年3月30日には、県の福祉保健部長と玉那覇会長立ち会いの下で、4,479.15㎡の県有地の売買契約を締結することが出来まし

た。その後敷地内に食い込んでいた南風原町の里道18㎡を買い足し、総敷地面積は4,497.15㎡となっております。

この県有地の購入に伴い、建築確認申請の前提条件となる都市計画法上の開発行為許可申請書を県南部土木事務所に3月26日に提出していましたが、6月13日に待ちに待った開発行為許可指令書が交付され、6月19日には建築確認申請書を南部土木事務所に提出しております。

この6月19日は改定建築基準法の施行日前日で、20日からは新建築基準法が適用されることから、19日までに申請書類を提出すれば旧建築基準法の運用どおり建築確認申請書の修正箇所は書類の差し替えが可能であるけれども、20日以降の申請になった場合には、書類に不備があれば即不許可となり、最初から書類を作り直して再申請しなければならないとの事で、一日の違いは大変大きな意味があり、設計事務所も必死になって書類を整え建築確認申請に漕ぎ着けた苦労は大きかったと思います。

その他にも19日以前に建築確認が許可された工事であっても、工事未着手の場合には構造計算は改定建築基準法の基準を満たさなければならな



いとこの事で、しかも国土交通省が構造計算の詳細な事項を公表するのが遅れたと言うこともあって、構造計算のやり直しは建築業界で大きな社会問題を引き起こしました、当協会でも建築確認申請書を法施行前日に提出してはいましたが構造設計は新基準でやり直す必要が生じました。しかし幸いにも設計事務所では構造設計で権威のあるORS事務所代表者の依田定和氏に構造設計を依頼してあったため構造計算ルート3と言う最も複雑な構造計算であったにも拘わらず、法律施行前日に提出した確認申請が構造計算ルート3では県内1号での早期許可となった事等、人に恵まれたとの思いを強くしました。

その様な経過を経て2007年7月26日には、入札参加申し込みをした21社に対して入札を実施し、翌日は入札額の低い5業者を対象に入札見積積算書を基にヒアリングを実施し、見積もり項目の見落としや、見積額の突出した部分の積算根拠を確認すると共に、図面に基づく工法についての説明を求め、工事に対する取り組み姿勢を確認する方法をとりました。ヒアリングで指摘された見積もり項目を修正した見積書を再提出させ、その結果東恩納組が一番低い額の339,045千円を提示し、見積もり精度や図面に基づく工事の壺どころを押さえた説明を行っていたこと等を評価して、最低額であっても工事は十分完成させる技術力を有すると判断し、理事会での承認を得て東恩納組と工事請負契約を締結することになりました。

2007年6月19日に提出した建築確認申請書が、やっと11月9日には県から許可があり、この許可を受けて11月28日に東恩納組と建築工事請負契約を

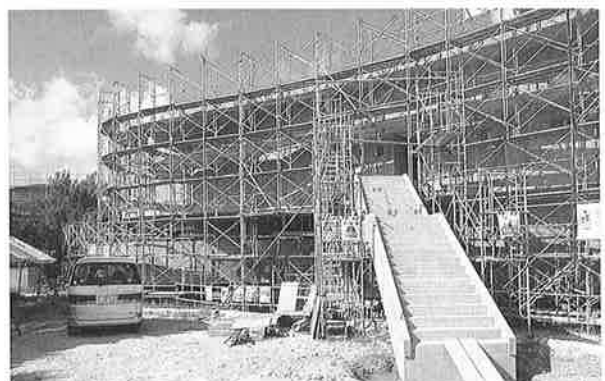
締結しました。建築規模は延べ床面積1,887.32㎡(572坪)、当初契約金額は339,045千円となっております。

建築工事請負契約締結翌日の2007年11月29日には地鎮祭を行いその翌日から敷地の整地作業が開始されております。

建築工事においては建物の土台となる地層が1メートル足らずで堅いクチャ層となっており、基礎工事の掘削作業には相当難渋したようですが、建物を建てるには最高の地層だと東恩納組さんから太鼓判をいただいております。

建築工事は1月単位で各階の骨組みが出来上がるペースで進み、2008年2月11日に1階床の生コン打設を行い、2008年5月9日には3階屋根の生コン打設を行い、上棟式を行っております。この建設工事に際しては、各階の床、壁の配筋検査は構造設計事務所の依田代表が直接メジャーを使って検査を実施し、東恩納組さんの話では防衛施設庁の検査よりも厳しかったとの話を伺っております。

この躯体工事において、1日だけ雨の予報でスラブ打ちを延期したことがありますが、それ以外は順調に作業が進み、しかもスラブを打った翌日



は必ず小雨が降るという天候にも恵まれました。

上棟式終了後は1階部分から内部工事に入り、2008年11月には建物完成後の県の各種検査を受け、11月21日の最終段階の施主検査を経て11月28日に東恩納組から建物引き渡しを受けております。そして12月1日には東町の事務所から新しい建物に事務所の移転を行っております。

この会館建設事業に際し、中国でのオリンピック開催に伴う建築ラッシュの為に、鉄不足からくる鉄筋の値上がりがあり、当協会の工事でも鉄筋相場を横にらみしながらの厳しい環境での工事となりましたが、ほぼ同一時期に県医師会や県薬剤師会等の建築工事があり、当協会を含めて5団体で公共下水道への接続を共同で行うことで工事費の圧縮を行うことが出来たことなど、時期的にも恵まれておりました。

また、プロポーザルコンペ審査委員の各先生方には大変お忙しいなかを遠路沖縄での審査で公正な審査を実施していただき、素晴らしい設計事務所を選定して戴きました。フナキサチコケンチクセッケイジムショ・細矢仁建築設計事務所設計共同体さんには設計のやり直しにも拘わらず、より良い作品を創りたいとの強い思いで設計担当委員の各先生方の様々な意見を粘り強く時間をかけて聞き入れて下さり、設計担当委員の先生方が子どもたちにも夢を与える様な特徴的な建物にしたいとの思いを、見事設計図面で表現して下さり、全く新しい感覚の子どもたちにも優しい建物を完成させていただきました。また建築工事を担当していただきました東恩納組さんも設計事務所からの高い技術要求にも誠実に応えていただき、県内

では見られない新しい建造物を是非自分たちの手で完成させてみたいとの強い思いで工事に取り組んでいただいたことや、一般的には5～6か月かかると言われていた開発行為の手続きを渡南エンジニアリングさんが3か月足らずで県からの許可を下ろして下さったお陰で、改定建築基準法施行前に建築確認申請をすることが出来ました。その他にもマスタープラン小委員会の各先生方、設計担当委員の各先生方には、日常業務を終えてからの会議を頻繁に開催し、しかも遅くまで討議していただくなど大変なご苦勞があったと思いますが、各先生方は会館の出来上がりを夢見て本当に熱心に討議をしていただきました。

この様な素晴らしい人たちとの巡り合わせでこの記念すべき建物が出来上がった事を記録に残したいと思います。

建築に関わった多くの人たちの思いに応えるためにも完成後の沖縄小児保健センターの建物が、県民の小児保健向上の諸活動拠点として多くの県民に活用される様な仕組みづくりをし、センターを拠点に今後ますます沖縄の小児保健の向上に邁進したいものです。

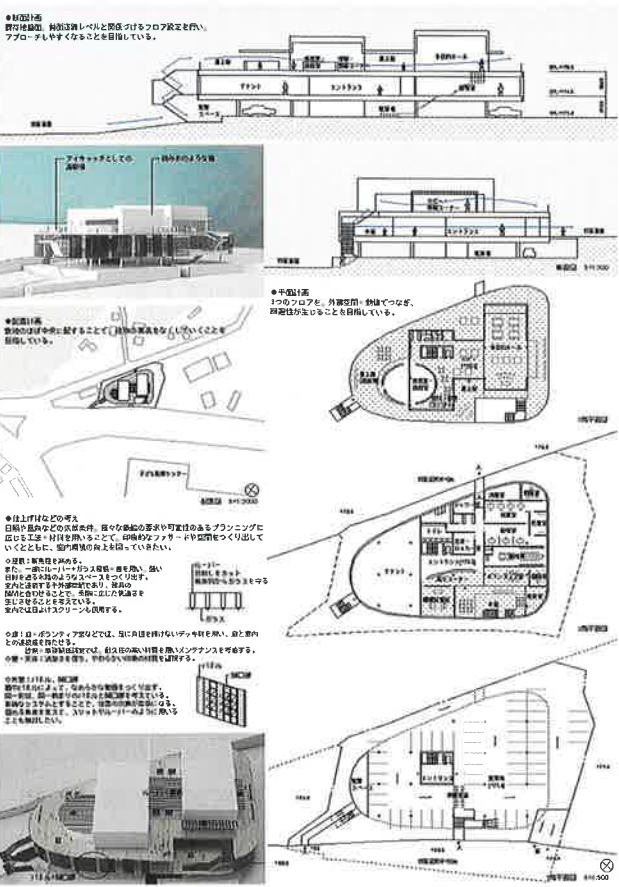
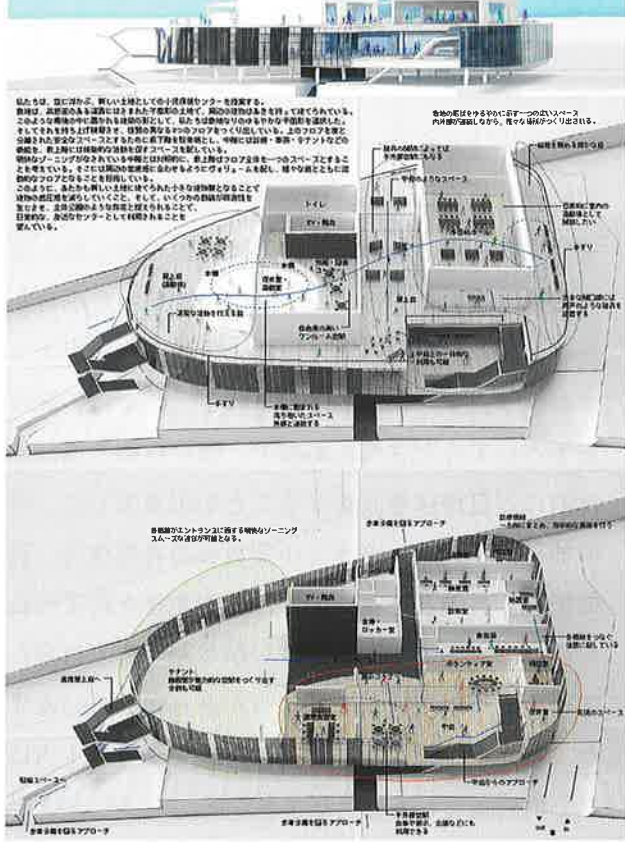
#### ■建築規模

- 1 敷地面積 4,497.15㎡
- 2 建物 RC構造地上3階建て
- 3 延床面積 1,887.32㎡
- 4 床面積 673.89㎡
- 5 総工事費 460,626,974円

理事 宇久田 全 正



沖縄小児保健センター（仮称）建設プロポーザルコンペ応募案



沖縄小児保健センター（仮称）建設プロポーザルコンペ応募案



設計委員会





プロポーザルコンペ審査会



東恩納組との契約締結



設計案の選定



模型を囲んでの打ち合わせ



沖縄小児保健センター建設の記録







3階ベランダからの風景と2階事務室からの風景



基本設計報告会で基本案を承認いただきました。

設計委員会が設けられたたくさんの  
意見交換がなされました。



地鎮祭でのお祓いと鍬入れ



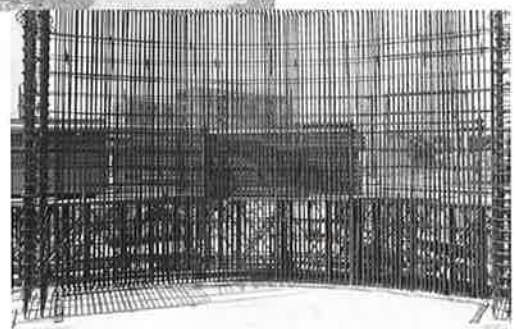
地盤にも恵まりました。



基礎工事と見事な  
までの鉄筋



上棟式が終わりました。







センター引渡し前の見学風景



無事に落成式を迎えられて  
一安心です。



テープカット



KIDS  
DESIGN  
AWARD  
2009

第3回キッズデザイン賞  
|部門賞| 建築・空間デザイン部門賞

社団法人沖縄県小児保健協会 殿  
フナキサチコケンクセッケイジムシヨ・細矢仁建築設計事務所 設計共同体 殿

下記作品は建築・空間デザイン部門において  
特に優秀と認められましたのでこれを賞します

作品名  
沖縄小児保健センター

社団法人沖縄県小児保健協会 会長

和田 勇



第3回キッズデザイン賞 建築・空間デザイン  
部門賞を頂きました。

キッズデザイン協議会（内閣府認証NPO、本部：東京都文京区、会長：和田勇）は、2009年8月5日、子どもの安全・安心と健やかな成長発達に役立つデザインを顕彰する「第3回キッズデザイン賞」受賞作品182件の中から、より優れた作品として、キッズデザイン大賞（1件）、金賞（6件）、部門賞（4件）、審査委員長特別賞（3件）を決定しました。沖縄小児保健センターが建築・空間デザイン部門での最高位の部門賞を受賞致しました。



沖縄県小児保健センターの建設に3年間という短い期間ではありましたが、関わらせていただきました事、大変ありがたく誇りに思っています。建物は完成致しましたが、設計委員会等で皆様と共に意見を展開し辿り着いた建物のデザインは、とても生き活きた魅力ある使われ方に繋がるものと信じております。無数の可能性を秘めているとも言えるのではないのでしょうか。沖縄の子供達の未来に貢献出来れば幸いです。そしてその実現に私たちも尽力したいと思っています。

協会の皆様、設計委員会に来ていただいた外部委員の皆様、施工に関わってくださった方々、全ての方にお礼を申し上げたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。お願い致します。本当にありがとうございました。

船木幸子 細矢 仁

有) フナキサチコケンクセッケイジムシヨ 〒140-0001 東京都品川区北品川3-5-26-504 03-57228404 <http://www.funa-kisachikokenkyukai.jp/> [info@funa-kisachikokenkyukai.jp](mailto:info@funa-kisachikokenkyukai.jp)  
一級建築士事務所 細矢仁建築設計事務所 〒154-0012 東京都世田谷区駒沢2-25-14 03-3418-4859 <http://www.jinbosoya.com/> [info@jinbosoya.com](mailto:info@jinbosoya.com)